

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 平成19年11月12日（月）

指導学級

場 所

指 導 者

1 単元名 これからの福祉と生活環境（教育出版p110～p121）

2 単元について

(1) 現在の日本は、財政赤字、少子高齢化を始め、多くの問題をかかえている。その反面、すべての人々が、国民として豊かな生活を手にいれ、安心して暮らしていきたいと考えている。この単元のねらいは、そのような国民の願いを実現するためには、国や地方公共団体の経済的役割が重要であるということを理解させることである。したがって、社会資本の整備、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解させるとともに、限られた財源の配分という観点から財政について考えさせていくことも必要である。

本単元は、以上に掲げた国や地方公共団体の取り組みを学ぶことにより、諸問題を見つけ、総合的に考えを深めることで、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての意識を高める上で適した教材であると考えられる。

(2) 本単元に関わる系統は、以下の通りである。

<4年>

(3) 水・電気・ガスの確保や
廃棄物の処理

(4) 災害、事故から安全な暮らしを守る工夫

<5年>

(1) 日本の農業・水産業

<中学校・公民的分野>

(2) 国民生活と経済
ア 私たちの生活と経済

イ 国民生活と福祉

(3) 生徒の実態

本学級は、授業の中で積極的に発表をする生徒は、男女数名に限られているクラスである。また、グループ活動では話し合いが苦手な生徒が多く、なかなか話し合いが進まない班もある。

アンケートの結果（36名に実施）は次の通りである。

①公民の学習が

好き（10名）、まあまあ好き（17名）、やや苦手（7名）、苦手（2名）

②話し合い活動が

好き（6名）、まあまあ好き（14名）、やや苦手（8名）、苦手（8名）

③「消費税」に関して、興味が

とてもある（6名）、まあまあある（21名）、あまりない（7名）、ない（2名）

「消費税」には、興味関心を持っている生徒が多く、「消費税が上がるという話もあるし、使い道など知りたい」「自分の生活にも直接かわるから」などの理由が多かった。

(4) 本単元の指導にあたっては、次のことに留意したい。

指導にあたっては、増税をすべきかどうかを中心的事象とした問題解決学習を設定する。具体的には、本単元のはじめに「今の日本は、消費税を17%にあげるべきである?!」という学習問題を設定する。この問題に取り組むことで、現代の社会的事象に対する関心を高めさせ、様々な資料を適切に収集・選択させることで、事実を正確にとらえさせたい。そして、多面的・多角的に考察させ、公正に判断させるとともに、適切に表現する能力と態度を育てたい。そのためには、本単元第6次までの授業の中で、適切な資料を準備して問題点を明らかにする授業を行っていくとともに、ワークシートで子どもたちの思考を整理させていくことが重要であると考えられる。

問題解決のための思考領域をはっきりさせるために、教師側から、①今の税金の問題から②国の財政

の問題から③景気対策の問題から④今の社会保障に対する問題からの4つのテーマを上げる。そして、ホームグループでそれぞれの担当を決め、“消費税を17%に上げるべきか”という学習課題をもとに調査させ自分の考えを整理させる。その上で、同じテーマに取り組み、結論が同じであるジグソーグループを形成して話し合うことで思考を深めさせたい。その後、ホームグループにもどり、4つのテーマをもとに学習課題について話し合い、それぞれのグループで結論を出した後、「全体討議」を通して、更に、多面的・多角的にとらえ思考を深めさせたい。グループ活動では「バズ学習」を取り入れることで、一人一人の子どもの考えを大切にしていきたい。

最後に「財務省アンケート結果」をもとに、自分の考えを検証させる。

(5) 研究テーマとの関連

【研究員社会科部会 研究主題】

小中学校社会科学学習における、個を大切にする問題解決学習の学習過程と手だての研究

視点 (1) 意思決定場面を取り入れた学習過程 (検証授業①をふまえて)

視点 (2) 一人一人に自分の考えを持たせるための学習過程と手だて (検証授業②をふまえて)

視点 (3) 一人一人の考えをお互いに認め合わせるための学習過程と手だて (検証授業③をふまえて)

視点 (4) 一人一人の考えをお互い認め合い、自分の考えを深めていく学習過程と手だて

(今回の検証点)

【今回取り組む学習過程】

- ① 学習問題の把握
- ② 自分が担当したテーマに各自取り組む (まず一人で考え結論を出す)
- ③ テーマに対する同じ結論ごとのジグソーグループの話し合い
- ④ ホームグループでのバズ学習
- ⑤ 全体討議 (一斉)
- ⑥ まとめと確認

3 単元の目標

国民生活の福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的役割について考えさせる。その際、社会資本の整備、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解させるとともに、限られた財源の配分という観点から財政について考えさせる。

4 評価基準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能表現	社会的事象についての知識・理解
私たちの生活を豊かにするために、国の財政、税金、社会保障などの問題について関心を持ち、意欲的に調べようとする。	私たちの生活を豊かにするために、単元を通して学習することにより増税が必要であるか、総合的に考え、判断しようとする。	私たちの生活を豊かにするために、様々な資料を通して、増税が必要であるかどうかを読み取ることができる。	私たちの生活を豊かにするために、税金や社会保障制度などのしくみを理解することができる。

5 指導計画 (9時間扱い 本時9/9)

次	学習内容	教師の指導・支援と評価	時間
1	学習課題“日本は消費税を17%に上げるべきである!?”をこの単元で考えていくこと知る。 「政府の経済活動」 ・政府のはたらき ・財政の役割 ・税金の種類とその特徴	学習課題を常に考えながら、授業に取り組みさせる。 ・政府の経済活動と家計や企業との結びつきを理解させる。 ・税金の種類と特徴から、その役割と現在の問題点を考えさせる。 【評価】思考判断・知識理解 (ワークシート)	1

2	<p>「国のお金のやりくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふえる公債 ・財政投融资 ・国家財政と地方財政 	<ul style="list-style-type: none"> ・公債発行の問題点と課題を考えさせる。 ・国と地方公共団体の財政の関係について考えさせる。 <p>【評価】 思考判断・知識理解 (ワークシート)</p>	1
3	<p>「経済の安定を求めて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気変動 ・景気の調整 ・インフレーションとデフレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・景気変動が国民生活に与える影響について考えさせる。 ・政府の財政政策と日本銀行の金融政策の役割について理解させる。 <p>【評価】 思考判断・知識理解 (ワークシート)</p>	1
4	<p>「安心してはたらく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働と生活 ・働く権利 ・労働の現状とこれから 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意味を理解し、労働条件の改善や働く権利について考えさせる。 ・労働の現状と今後の課題について考えさせる。 <p>【評価】 思考判断・知識理解 (ワークシート)</p>	1
5	<p>「安心と生きがいのある暮らし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障のしくみ ・費用負担のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の意味や、日本の社会保障制度について考えさせる。 ・社会保障を充実させるための費用負担のあり方について考えさせる。 <p>【評価】 思考判断・知識理解 (ワークシート)</p>	1
6	<p>「豊かな暮らし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本 ・暮らしやすい町づくり ・個人・企業・政府の連帯 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような社会資本が整備されることが、生活の充実につながるのか考えさせる。 ・暮らしやすい町づくりのための考え方や取り組みについて理解させる。 <p>【評価】 知識理解 (ワークシート)</p>	1
7	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題「今の日本は消費税を17%にあげるべきである?!」を確認する。 ・ホームグループで①今の税金の問題から②国の財政の問題から③景気対策の問題から④今の社会保障に対する問題からの中から1つずつ分担を決めて調べ学習を行い、自分の調べた項目に対して、課題に対する結論を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をしっかりと押さえ、今まで学習してきたことをもとに判断させる。 <p>【評価】 資料活用 (調べ学習) 思考判断 (ワークシート)</p>	1
8	<ul style="list-style-type: none"> ・課題別グループごとの同じ意見の人たちに別れてお互いの意見を聞き、自分の出した結論を話し合いながら検証し、考えを深める。(ジグソーグループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えていなかった参考になる意見は、課題を考える上での材料にすることを押さえる。 <p>【評価】 思考判断 (ワークシート)</p>	1
9	<p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームグループで、自分が調べて結論を出した担当項目について発表する。そして、話し合い学習課題に対する結論を出す。(バズ学習) ・全体討議で、ホームグループで話し合ったことをもとに、学習課題に対する意見を発表する。 ・自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームグループ、全体討議で出した意見をもとに、自分の考えを整理させる。 <p>【評価】 思考判断 (ワークシート)</p>	1

6 本時の目標

(1) 一人一人が調べて出した結論をもとに、グループ・全体討議で、「今の日本は消費税を17%に上げるべきである」という課題に対して意見を述べ合うことで、自分の考えを深めることができる。

(2) 展開

学習活動	時間	予想される生徒の反応	教師の指導・支援	備考
1 本時の活動内容を確認する。	導入 2分		<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を貼る 今まで使用した資料も利用させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 今の日本は消費税を17%に上げるべきである!? </div>				フラッシュカード
2 『消費税検討委員会』を開こう。 <ul style="list-style-type: none"> ホームグループで、ジグソーグループ内で結論を出した担当項目について発表し、学習課題に対する考えも述べ結論も出し、初めボードに理由を書く。 	展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> 私は、国の財政について調べましたが、〇〇の理由で増税には反対です。 僕は、社会保障について調べたのですが、△△だから、増税に賛成です。 意見をまとめます。総合的に考えると、〇〇の理由から、賛成意見が多かったようです。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨場感を持たせる。 ホームグループ内のバズ学習により質問や意見を出し合い、考えを深めさせ、学習課題に対して「賛成」か「反対」かの意見にまとめさせる。 他のグループから質問が出ても答えられるように理由をしっかりと伝えるように指導する。 	ワークシート1 ワークシート2 ワークシート3 初めボード マジック
3 ホームグループで話し合ったことをもとに、クラス全体で学習課題に対する考えを発表して、意見交換をする。	15分	<ul style="list-style-type: none"> 1班の「賛成」の理由ですが〇〇のことは、賛成の理由としては、おかしいと思います。 私たち2班は△△の理由から「反対」としました。 歳出をできるだけ削減して増税を考えたほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見が出ない場合は、今までの資料を振りかえる時間を与え、出た意見を検証させる。 「賛成」「反対」のどちらかに偏る可能性があるが、これからの日本はどうあるべきか、総合的に判断させる。 	
4 「財務省アンケート調査結果」と自分たちの今までの取り組みを踏まえて、今後の日本はどう進むべきか最善の方法を考えて、発表する。	まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> 日本国民は、そんなふう考えているんだ。 消費税を段階をおって上げる。 歳出削減と増税の両面から考える必要があるな。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが話し合った結果とアンケート結果をもとに、一人一人に意思決定をさせる。 	財務省アンケート結果 ワークシート4

7 学習課題 “日本は消費税 17%に上げるべきである”

に関する生徒の予想

(○は賛成理由 ×は反対理由)

①今の税金の問題から・・・

- × 日本の直接税は、世界的にみてもかなり高い。これ以上直接税が高くなったら働く意欲がなくなってしまう。景気が悪いときも減ってしまうので、「消費税」以外の間接税を上げるべき。
- × 「少子高齢化」が進むと「法人税」「所得税」を中心とする直接税はどんどん減っていく。若者への負担が一層増すだけである。
- 間接税である「消費税」は、働いている人たちだけでなく高齢者からも平等にお金を集めることができるので、「少子高齢化」の影響を受けにくいので「消費税」は上げてでも仕方がない。
- × 「消費税」を上げることは、個人の経済的格差を考えると平等ではない。「法人税」「所得税」などの直接税を上げるべきである。
- 外国の「消費税」は、20%を越えたりもしている。日本の「消費税」は低いので、上げてでも大丈夫な気がする。

②国の財政の問題から

- 日本は今後700兆円以上の借金と利子を返していかなければならない。新たな財源もないまま公債が毎年20兆円以上増加している（国債の問題）ので増税も仕方がない。
- 景気が悪いため、税収が減っているから消費税を上げるのも仕方がない。
- 歳出が増加しているから仕方がない。→高齢化による年金、医療費の負担の増加。
- × 増税をする前に、地方公共団体の行政改革や市町村合併などを進め、地方公共団体への「国庫支出金」「地方交付税交付金」の見直しをすることが、まず必要では。→地方分権を進める。
- × 増税をする前に、公共事業を精選すべき。
- × 増税をする前に歳出の削減が重要。→財政再建、民営化など
- 長期的に安定しており且つ高額な収入を得られるような増税が必要だから「消費税しかない」。

③景気対策の問題から

- × 増税したら景気が今以上に悪くなる。減税をして景気をよくした方がよい。
- × 景気がよくなれば、税収もあがるので増税は必要ない。
- 減税しても、今のように将来に対する不安が強い場合、多くの人は将来に備えて預貯金してしまうので景気がよくなるのではないのでは。その場合、税収が上がらないので増税も仕方がない。

④今の社会保障に対する問題から

- 高齢者層の増加により国の社会保障における公費負担額が上昇の一途をたどっているため増税も仕方がない。
- 高齢者が増加することにより、若者に負担がかかり過ぎないような増税が必要である。
- 主な国の国民負担率を比較してみると、日本は高いとは言えない。
- × 増税を考える前に、少子化を改善するために、女性が仕事と家庭生活を両立できる制度を整備することが必要ではないか。
- × 高齢社会になるのだから、退職年齢の引き上げや、高齢者が働きやすい環境を整備するなど考えるのが先ではないか。